

☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆

2019年度 日本臨床歯科医学会東京支部 第1回例会のご案内

新緑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る6月2日(日)に開催されます2019年度 東京 SJCD 第1回例会についてご案内申し上げます。

今回はインサーストレージングとして、東京 SJCD 元会長でありペリオドンタルマイクロサージェリーの世界的トップランナーである鈴木真名先生に歯周形成外科に関する様々な症例を提示していただき、最新のアップデートをしていただける予定です。

また、会員のケースプレゼンテーションにおいては、合同例会で活躍された構義徳先生と中村茂人先生、また新人枠として内野雄介先生をお願いしております。

今回は、大変充実した内容となっており、満足度の高い例会になると予想しております。例会後には毎年大好評の懇親会も用意しておりますので、皆様お誘い合わせの上、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 2019年6月2日(日) 受付開始 9:30 / 開演 10:00~17:00

会場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

懇親会会場 17:30~ / 都市センターホテル オリオン 5F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1 **TEL** 03(3265)8211

今年度より東京 SJCD のホームページ「会員ログイン」の「イベント」より事前登録をお願いいたします。また、当日はQRコードでの受付となりますので、ご準備ください。

-教育講演-

『 Maximization of Pink Esthetic by Periodontal Plastic Surgery ~ Key point to success ~ 』

鈴木歯科医院 鈴木 真名 先生

-一般講演-

『白歯の干渉により咬合崩壊を起こした患者に対し

ビルドアップとインプラントを用いて咬合再構成した症例』

高橋歯科医院 内野 雄介 先生

『機能と歯周組織への調和を考慮した全顎的な審美修復』

デンタルクリニックアレーズ銀座 中村 茂人 先生

『Interdisciplinary management for complex patient

:An attempt to control mandibular position: A case report.』

六本木カマエデンタルオフィス 構 義徳 先生

-教育講演-

『 Maximization of Pink Esthetic by Periodontal Plastic Surgery ~ Key point to success ~ 』

鈴木真名(鈴木歯科医院)

■ 略歴

1984年 日本大学松戸歯学部卒業

1989年 鈴木歯科医院 開業

2008年 鶴見大学歯学部 口腔顎顔面インプラント科非常勤講師

2009年 日本大学松戸歯学部 客員教授

■ 所属

日本臨床歯科医学会理事、日本歯周病学会専門医、日本臨床歯周病学会指導医、日本顕微鏡歯科学会理事、指導医、

AAP(American Academy of Periodontology)会員

■ 抄録

歯周形成外科の概念は、今、変革の時を迎えていると考える。従来、歯周形成外科は補綴前処置という位置付けにある。しかし、精密な処置を行うことで、“計算できる術式”という認識を持つ術者が増えてきている。計算できる施術を行うことで、歯周形成外科は補綴処置の後に起こってしまった問題点に対するリカバリーの目的で適応できるようになってきている。

しかしながら、計算のできる精度の高い手術を実践するには、術者が理論を十分理解し、高いスキルを持たなければならない。それには、当然、精度を追及するための器具、機材が必要になることは言うまでもない。

筆者は 20 年以上歯科臨床にマイクロスコープを用いている。そして、歯周形成外科の分野においても同様である。

本講演において、様々な歯周形成外科の術式の中で、どのような点に細部にわたり注意を払い、審美的な結果を伴った治癒を獲得するか、その理論をエビデンスベース、また、仮説をまじえて、考察する。

- 一般講演 1 -

『臼歯の干渉により咬合崩壊を起こした患者に対しビルドアップとインプラントを用いて咬合再構成した症例』

内野 雄介(高橋歯科医院)

■ 略歴

2010年 日本歯科大学生命歯学部 卒業

2011年 高橋歯科医院 勤務

2015年 SJCD レギュラコース受講

2019年 はせがわ歯科医院 勤務

■ 所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部

■ 抄録

昨今、歯科界には様々なトレンドが生まれ術式や材料は大きな発展を遂げている。しかし、治療を成功に導くために最も重要なことは、基本である診査・診断と包括的な治療計画の立案・実行であり、それが永続性のある治療へ繋がると考える。

本症例は 57 歳女性、欠損部の回復を主訴に来院された。臼歯の治療の繰り返しや欠損の放置により干渉を起こし補綴が所々壊れ、咬合崩壊を起こし始めている状態であった。

欠損がある患者に対して、「現状の把握」「原因の究明」「問題点の抽出」を考察。残存歯の保全と機能回復を目的として立案したトリートメントプランに基づき、取り組んだ全顎治療の症例をご報告させていただきます。

- 一般講演 2 -

『機能と歯周組織への調和を考慮した全顎的な審美修復』

中村 茂人 (デンタルクリニックアレーズ銀座)

■略歴

2000年 日本大学松戸歯学部卒業
2002年 原田歯科クリニック勤務
2007年 土屋歯科クリニック&Works 勤務
2008年 デンタルクリニック アレーズ銀座 開業
2013年 University of Southern California 卒後研修 終了書

■所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部理事 東京 SJCD レギュラーコースインストラクター 日本顎咬合学会会員
日本臨床歯周病学会会員 日本歯周病学会会員 ITIメンバー OJ 正会員

■抄録

近年、接着の概念から低侵襲なセラミック修復が可能となり、できる限り削ることなく、透明感のある歯を再現することが可能となった。一方で患者の要求度が増し、細かな点まで求められるようになったことは否めない。また、MI (Minimally invasive) とはいえ、削ることに変わりはなく、後戻りできないことを認識する必要がある。つまり、下顎位や咬合といった機能的な側面や顔貌との調和、歯周組織への配慮などの包括的な診査の上で行わねばならないことも変わりはないといえる。さらに審美的要求の強い患者は、細部にわたっての要求度が高いため、少しの失敗が致命傷となる。そのため、歯周外科を行う際にも、より安全な術式を選択し、より繊細な施術でなければ対応できないともいえるだろう。

今回、審美的要求の強い患者に対し、診査診断から『できること』『できないこと』『失敗のリスク』などのディスカッションを行い、ステップごとの再評価を重ね、顎位や咬合、歯周組織の環境を整えて審美的改善を測ったことで、結果的に患者満足を得られた症例を、実際の術式などを含め報告する。

- 一般講演 3 -

『Interdisciplinary management for complex patient

:An attempt to control mandibular position: A case report.』

構 義徳(六本木カマエデンタルオフィス)

■略歴

1999年 愛知学院大学 歯学部 卒業
タツキ歯科 勤務
2002年 東京 SJCD レギュラーコース受講
2008年 医療法人 聖和会 六本木シンフォニークリニック歯科・内科 分院長
2013年 六本木カマエデンタルオフィス開業 現在に至る

■所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部 愛知学院大学 高齢者歯科学講座インプラント科 研究生
日本補綴歯科学会 日本口腔インプラント学会

■抄録

歯を失う原因には、カリエス、歯周病など様々な要因がありますが、根本的要因には、不正咬合が関与していることが少なくない。その不正咬合を改善しないで治療を行なっても長期的な予後は期待できない。そのため、治療計画に矯正治療が必要になる場合が多く、それにより複雑な治療が非常にシンプルに目標ゴールに到達することができるようになりました。しかしながら、一般的に治療が長期化することと、思い通りに歯の移動が伴わないのが現実的な悩ましい問題でもある。これには、上下顎の前後、左右的なディスクレパンシーを“抜歯で解決する”傾向が強いことが影響している。

今回、2011年から実践しているコンセプトを診断、治療に利用することで、2級の患者さんに対して良好な治療結果を得た症例をみなさんと供覧し、ディスカッションしていきたいと思っております。

2019年 東京 SJCD 第1回例会 ポスター発表

- ポスターセッション1 -

『 A case of Applying Post-Prosthetic Surgery to Shorten the Treatment Period. 』

大河原純也 先生(ありす歯科医院)

■ 略歴

1994年 日本大学松戸歯学部卒業
1998年 日本大学大学院松戸歯学研究科修了(補綴学専攻)
1998年 日本大学松戸歯学部補綴学第3教室入局
1999年 鈴木歯科医院勤務(東京都葛飾区)
2003年 ありす歯科医院開院(茨城県つくば市)

■ 所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部理事、日本顕微鏡歯科学会認定医、
日本大学松戸歯学部兼任講師、AMED (Academy of Microscopic Enhanced Dentistry) Board Member/Certified Member、AO (Academy of Osseointegration) Member.

■ 抄録

補綴治療を伴う歯に歯周形成外科を適応しようとする場合、通常は補綴前処置として補綴治療前に行われる。しかし歯周形成外科から数ヶ月の経過観察を経て最終補綴治療に移行することになるため、治療期間が限られる患者に対しては適応できないことがあった。

近年、マイクロサージェリーの登場によって、より正確な歯周形成外科が可能となり、治療計画通りの結果が得られるようになってきている。そこで、補綴治療後にマイクロサージェリーを適応すれば大幅に治療期間を短縮することができる可能性があると考えられる。

今回、治療期間に制限のある患者に対して、計画的に補綴後処置として歯周形成外科を適応して治療期間を短縮した症例を報告する。

- ポスターセッション2 -

『 Periodontal regenerative therapy in orthodontic treatment and new decision-making 』

綿引淳一 先生(医療法人社団 Teeth Alignment AQUA 日本橋 DENTAL CLINIC)

■ 略歴

1999年 昭和大学歯学部卒業
2004年 日本矯正歯科学会認定医取得、昭和大学歯科矯正学大学院卒業 博士号取得
2006年 AQUA 日本橋 DENTAL CLINIC 開業
2008～2012年 理化学研究所脳科学総合研究所 客員研究員
2011～2017年 アサヒグループホールディングス 商品開発コンサルタント

■ 所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部会員(認定医)、日本矯正歯科学会(認定医)、
昭和大学歯学部歯科矯正学教室(兼任講師)アメリカ矯正歯科学会会員、アメリカ歯周病学会会員

■ 抄録

近年、成人矯正治療患者の増加に伴い、歯周組織に問題のあるケースに矯正治療を行う機会が増えてきている。そこで、歯周再生治療を矯正治療に組み合わせた治療法への期待が高まってきている。しかしながら、マルチファクトリアルな矯正移動変化が歯周組織再生効果にどのように影響を及ぼすのかに関しては未だ不明な点が多く存在する。そこで、本発表においては骨補填材の種類や術式による違いが得られる再生骨の量にどのような影響を及ぼすかに関して臨床的検討を行った。その結果、発表で示すような骨補填材の選択ならびに増生骨の量に関して新たな臨床的指標が示唆されたので報告する。

『インプラント補綴と矯正治療を併用した咬合再構成 -5年経過報告』

吉田茂治 先生(パークサイドデンタルオフィス)

■ 略歴

1999年 日本歯科大学 卒業
1999年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 顎顔面外科 入局
2001年 東京 SJCD レギュラーコース 修了
2001年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 顎関節治療部 勤務
2002年 パークサイドデンタルオフィス 開設
2012年 原宿マスターコース修了

■ 所属団体

日本臨床歯科医学会東京支部 会員・日本顎咬合学会認定医・日本歯科審美学会認定医・
日本顎関節学会会員・日本睡眠学会 会員・日本睡眠歯科学会 会員

■ 抄録

患者は57歳女性。主訴はインプラントによる臼歯部咬合の回復。
診査の結果、前歯部叢生に伴いアンテリアガイダンスが適正に機能しないこと、またパラファンクションの存在が臼歯部欠損を生じさせた一因と診断した。
安定したバーチカルストップの確立と、適正なアンテリアガイダンスに導かれたポステリアディスクルージョンの獲得を目指し、インプラントによる臼歯部咬合回復と併行して矯正治療を実施する計画を立案し治療した。術後5年経過時の状況も併せて報告する。